

県民会議での指摘事項

部局名	事業名	発言者	発言内容
教育庁	ふるさと教育推進事業	近間委員	マンガ調にするとか、掲載人物に芸能人を載せるなど若者の興味をひくような資料にしてはどうか 若者に読んでもらうためには、本のボリュームも考えた方がよい
		高村委員	電子化すると、活用範囲が広がるのではないか
	高校生県内企業訪問・職業理解推進事業	近間委員	高校1年生のとき、事業があることを知らなかった。事業の周知が必要ではないか 高校生がなりたい職業について考え、自ら企業を調べる機会を作る必要があるのではないか
	芸術教育推進事業	高村委員	弦楽器は指導者がいないと活用しにくいと、希望を募って、希望がある学校に貸与してはどうか
		石田委員	練習した成果を目に見える形で発表する機会が必要ではないか
	吹奏楽活動支援事業	石田委員	吹奏楽器は推進校でなくても、希望する学校に整備する仕組みを作ってはどうか
		伊藤委員	社会人の音楽ユニットと共同演奏し、発表する機会をつくるなど、生徒のモチベーションを上げるような取り組みをしてはどうか
	「白川文字学」普及・研究促進事業	高村委員	学校現場で働く立場としては、多くの業務がある中、授業量の削減はありがたい 生涯学習の視点で、学校が自由裁量で出来るような方式を検討してほしい
高校生トップアスリート確保事業	伊藤委員	高校生世代の選手強化をもっと推進していくべき	
健康福祉部	介護事業所における要介護度改善促進事業		意見なし
	ふくい健康美食普及対策事業	大島委員	割引制度など健康美食メニューを作成している店舗の支援を検討してはどうか
		米沢委員	どこにコストがかかって、誰が得をするのか。個人の健康増進に税金を入れる理由をはっきりさせ、波及効果を精査してビジネスとして成り立つ仕組みを考えることができれば、より民間を巻き込んだ取り組みに発展できるのではないか
	福井県共生社会推進事業	永下委員	互いの理解を深めるため小学校の段階からスポーツ交流などで壁をとる事業をしてはどうか 聴覚障がいがあっても、振動と光により音を感じることができる機械があるので導入してはどうか
	祖父母の育児休暇取得促進奨励金	大島委員	制度が知られていない。周知をはかってはどうか 親が子育てについて外部の人に頼ってもいいお思える雰囲気づくりをしてほしい
		米沢委員	県外に孫守にいく祖父母に支援すれば、子どもがおじいちゃん子になって福井に戻ってくる可能性があり、広い意味で定住促進になるのではないか
		平加委員	地域でリタイアした人を活用した地域のつながりを活かした育児支援をしてはどうか
境委員		祖父母に頼りたいのは緊急の場合が多いが、10日以上以上の休暇はハードルが高い。要件を緩和してはどうか	
安全環境部	コウノトリ放鳥・生息環境整備事業	伊藤委員	コウノトリをぜひ守ってほしい
		近間委員	地元では糞害など問題が出ている面もある。地元支援を検討してはどうか

県民会議での指摘事項

部局名	事業名	発言者	発言内容
安全環境部	コウノトリ放鳥・生息環境整備事業	米沢委員	税金である意味、どういう効果があって、全体的に波及効果があるのか。県である意味を戦略的に説明できるようにすると、そこから例えばブランド化等、今後の道筋が見えてくるのではないか
		松木委員	福井の生態系が素晴らしいということをアピールしてはどうか
	自然保護センター関連経費	米沢委員	そもそも、何を目的とした施設か位置づけが大事。どのように客を呼ぶのか、コンテンツ内容で変わると思うが、戦略はあるのか
		松木委員	通年して利用者が訪れるような工夫を検討してほしい
産業労働部	国際ビジネス人材育成支援事業	米沢委員	政策的に実施する意味があるのか、派遣した企業にとってビジネスとしてどれだけプラスになったのか確認すべき フィンドレーに限定するメリットとデメリットを踏まえて、目的・効果を考えて制度設計をしてほしい
		高村委員	海外体験を高校生に伝えるような制度にしてはどうか
		大島委員	企業で実施すればいいのではないか。零細企業等自力で行けない人が行くのに支援するなら分かるが、困っていない人が行くのはおかしい
	和膳による学校給食推進事業	米沢委員	地元の漆器屋の塗り箸なら子どもに与えるインパクトは大きいですが、他の地域でも同様の効果を与えるのは難しいのではないか
		高村委員	小学3年ぐらいに伝統工芸を学ぶ機会があるが、その時に渡した方がより効果があるのではないか また、自分の将来の仕事について考え始める中学校で配布するという考え方もあるのではないか
		大島委員	プラスチックの食器はにおいが移るが、漆器はにおいが移らないので保育用として活用してもいいのではないか
	台湾連携中国・東南アジア市場開拓技術商談会開催事業	大島委員	企業で実施すればいいのではないか
		米沢委員	メリットデメリットを精査したうえ、自走できるようにすべき 企業にとってリスクが存在する部分に対して県が支援するべき
	ものづくり企業生産性向上支援事業	米沢委員	県内産業に対し、どのような効果があるのか成果を示す必要がある。企業が自走して事業が継続できるよう検討してほしい
	農林水産部	コシヒカリ等福井米給食推進事業	
「いちほまれ」ブランド化事業		石田委員	有名人に頼る方式もあるが、草の根運動も必要。社員食堂に安く卸すなどの取組みを行ってはどうか
農林水産部	「いちほまれ」ブランド化事業	伊藤委員	品質にこだわるのが農家の責務であり、品質の良さがPRになると考えている いちほまれのPRを重点的に行うことで、他の品種も売れるのではないか PRの際には、若者向きのタレントを起用してはどうか

県民会議での指摘事項

部局名	事業名	発言者	発言内容
農林水産部	「いちほまれ」ブランド化事業	米沢委員	いかに付加価値をつけるか、ビジネスの視点から戦略を作る必要がある。役所だけで考えることは難しい分野だと思われるので、戦略を考える体制を作るとよいのではないか SNSなどのインフルエンサーを活用して、予算を掛けずにPR出来るのではないか 贈答品に必ず入れるなど、目に触れる機会を増やすとチャンスが生まれるのではないか
		松木委員	県外の人に贈る場合に、県が補助すると県民一人ひとりがアピール出来るのではないか
	福井県産米販売強化事業	永下委員	卓球の石川佳純選手には全農がスポンサーとしてついており、全農から遠征の際に米の提供がある。県でもスポーツ選手に提供してPRしてもらってはどうか
	ふくい農業ビジネスセンター関連経費		意見なし
	県内中学生の「セイコガニ」食べ方講習会開催事業	石田委員	毎年ヤフーニュースで報道されている。その意味でPR効果があるのではないか
		近間委員	食べ方を地域の人に教えてもらっておらず、ただカニを食べるだけになっている学校もある 中3だとそもそも教えてもらう必要もない。対象は小学生が良いのではないか カニが嫌いな子もいる。カニを食べたい人だけに実施すれば良いのではないか
	花いっぱい運動推進事業		意見なし
みどりと花の県民運動大会開催事業		意見なし	
土木部	福井の住まい総合支援事業	松木委員	建物自体ではなく、建物があることにより起こる「コト」を考え、打ち出す方がよい 三世代同居によりどのような「コト」が起こるのか考えてはどうか
		高村委員	三世代でない家庭もある。過疎地などで助けを求められない人もいる ライフサイクルに応じた支援のあり方を検討してはどうか
	空き家対策支援事業	境委員	空き家が引き起こすリスク、防犯・災害の視点からPRしてはどうか 空き家にならないためのPRや補助も検討すべき 既存の空き家について、流通にのせるだけでなく、地域で住宅以外の方法で利活用することも検討すべき
		米沢委員	空き家の持ち主にのみアプローチしても問題が解決しないケースも多い。空き家があることにより、誰が困っているのかを精査する必要がある 例えば、街中の空き家に問題意識をもっているのが街づくりを考えている人たちならば、この人たちにコミット・支援する考え方もあるのではないか